





上村正（かみむら・ただし）さん、揺子（ようこ）さんは共に75歳。初めての夫妻揃っての受賞となりました。ご夫妻の出会いが千駄ヶ谷の東京都体育館屋内水泳場。正さんは泳ぎたくなると千駄ヶ谷のプールへ通っており、そこで銀行の水泳部員だった揺子さんと出逢われたそう。結婚後はごく自然に、二人でスイミングクラブ通いが始まりました。マスターズスイミング歴は古く、40年を超えます。国内の大会みならずニュージーランドやカナダのモントリオール、オーストラリアのパースなどにも足を運ぶほどのマスターズスイマー。正さんは、「若い頃は（レースに出る順番は）後ろの組でしたが、いつの間にか最初の組になりました。マスターズ大会に出ていることが練習の動機付けになっています。お陰で健康ですから、まだまだカミさんと一緒に全国の大会に足を運びますよ」と語られていました。



小林正敏（こばやし・まさとし）さんは73歳。50歳を過ぎた頃から急激に体重が増え始めたことで、医師から「痩せないと死ぬ」と言われたのが水泳を始めるきっかけになったそう。水泳を始めると体重がみるみるうちに減り始め、目標の体重に到達。今ではすっかり健康になったため、「プールが命の恩人」と感謝をしており、通っているスイミングクラブへ感謝を形にしようと、更衣室の椅子を寄付したほど。スイミングの虜となって、元気に水泳を続けているそうです。

児玉啓子（こだま・けいこ）さんは71歳。長距離マスターズは13年連続出場している。泳ぎのきっかけは50歳の頃、娘さんから「スイミングクラブに通えば4種目をきれいに泳げるようになる」と言われたこと。カナヅチでしたが、今では国内の大会のみならず海外のマスターズ大会の常連になりました。「続けることの大切さ、身を持って“継続は力なり”を実感しています」と受賞を喜んでおられました。

